

松下幸之助記念財団 研究助成

研究報告

(MS Word)

【氏名】

于 海春

【所属】(助成決定時)

早稲田大学政治学研究科

【研究題目】

中国の権威主義体制における権力構造の変化
—計量テキスト分析から—

【研究の目的】(400字程度)

本研究の目的は、中国の権威主義体制における権力構造の変化を捉えるため、新聞記事内容の時系列分析を通じて、権力構造の変化が新聞のニュース生産にどの程度影響を与えたかを実証的に明らかにすることである。

2012年習近平政権が始まって以来、権力構造における大きな変化が見られた。具体的な変化として、政治権力の個人化、中央への集権化、共産党政権の権力の強化などが挙げられる(Shambaugh 2016)。また、先行研究は習近平政権が発足した後、情報規制の強化が新聞の日常のニュース生産に影響を与えていることを指摘した。とりわけ、メディアのニュース生産現場では政治的圧力で批判報道を展開できなくなった現象を指摘した。しかし、中国共産党・政府による情報規制の強化はどの程度新聞の記事内容に反映しているのか。これまでに、先行研究は現場のジャーナリストへの聞き取りや報道規制の事例などに注目して考察したが、新聞の記事内容に基づいた実証研究はまだ見当たらない。本研究は計量テキスト分析の手法を用いて、権力の構造変化に伴い、地方メディアのニュース生産における変化の程度を量的に捉える。

【研究の内容・方法】(800字程度)

本研究は、政府の腐敗問題をめぐる報道を事例として取り上げ、計量テキスト分析から、習近平体制が発足してから、地方紙の報道実践における変化がどの程度のものかを実証した。

腐敗報道を事例とした理由は、次の二つである。一つ目に、官僚・政府の腐敗は中国共産党政権の正統性にかかわる重要な議題であるためである。二つ目に、新聞は腐敗問題をどう取り上げるかによって、新聞が宣伝道具として機能しているのか、権力批判をしているのかを見分けることができるためである。本研究では、腐敗報道において、二つの特徴的な報道フレームがあると想定した。一つ目は、「プロパガンダフレーム」である。「腐敗の摘発をガバナンスの成果として強調し、腐敗の原因を官員個人の問題に求め、腐敗を防ぐために個人の意志や品格に頼ることを提唱する」フレームを指す。対照的に、二つ目は「番犬フレーム」である。「番犬」フレームは、「官員の腐敗によって大衆が損失を被ったことを強調し、腐敗の原因を制度の問題に求め、腐敗を防ぐために権力への監視が必要であり、市民の知る権利を強調する」フレームとする。本研究は二つの報道フレームの時間的変化を量的に捉えたことによって、報道実践における変化の程度を実証した。

データ収集は次の通りに行った。データベース「WiseneWS」を利用して、北京・上海・広東の三地域から省・直轄市レベルの党機関紙、主要な商業紙それぞれ1紙ずつを対象に、2004年から2017年までの「腐敗」に関する報道記事を収集した。

実証分析では、膨大な量の新聞記事処理を可能にするため、半機械学習(semi-supervised learning)の手法を用いて分析を行った。具体的に、分析には計量テキスト分析に特化したRのパッケージであるQuantedaのLSS(Latent Semantic Scaling)を使用した。LSSは、ベクトル空間モデルの応用であり、特異値分解に

よってノイズが取り除かれた文書行列の中で、一般的な感情語や政治的な特徴語の距離を計算し、文書の特徴を予測するモデルである（渡辺 2017）。本研究では、プロパガンダフレームと番犬フレームの特徴語を用いた辞書で訓練データを作成したうえで、機械学習で記事の報道フレームを予測した。

【結論・考察】（400字程度）

本研究は地方紙の腐敗報道を計量的に分析することで、習近平政権が発足した後、腐敗問題の報道フレームが明確に変化したことを実証できた。実証分析の結果、次の三点を発見した。第一に、党機関紙と商業紙の報道フレームにおける差異である。党機関紙は終始プロパガンダフレームを中心に報道を展開した。一方で、商業紙は全体的にみて番犬フレームを中心に報道をしていた。第二に、報道における時間的変化である。習近平体制が発足してから、党機関紙と商業紙の報道はいずれもプロパガンダフレームが強化された傾向がみられた。第三に、時系列に見て、商業紙の報道は番犬フレームからプロパガンダフレームへ転換する傾向が明確にみられた。それと同時に、北京・上海・広東の新聞の報道フレームにおける差異が縮小する傾向もみられた。以上から、本研究は、習近平政権の下で、情報規制の強化によって、メディア実践に生じた実質的变化、具体的にプロパガンダ機能が大幅に強化されたこと、地方紙の報道実践における差異の縮小などを発見した。報道実践に生じたこれらの変化は、集権化がメディアコントロールに反映した結果であると考えられる。